



34号

ミニブッククラブ ワークショップへ

先週から、チーム探究でミニブッククラブに取り組んでいます。アンケートをもとに一人一冊ずつ本を購入し、「おもしろいお話の秘密を探ろう」をテーマに、山本悦子さんの4作品を読み深めています。

- ・『がっこうがっぱのおひっこし』
- ・『先生、かんそうぶん書けません!』
- ・『先生、しゅくだいわすれました!』
- ・『しょうがっこうが、きらいです!』

チームごとに、絵に表したり、演技で表現したりと、さまざまな方法で解釈を深めているところです。

作家さんが、学校に来てくださいます

10月28日(水)の3・4時間目、山本悦子さんご本人にお越しいただき、「お話作りのひみつ」ワークショップを開いていただけることになりました。

ここで、子どもたちと相談して決めたことがあります。講師料を、2Qの野菜販売で得た利益からお渡しするということです。

自分たちで育てて、自分たちで売って、得たお金を、次の自分たちの学習のために使う。**この一周が、子どもたちの中でつながったことに大きな意味があります。**先日のソーラン節でもお伝えしたように、一つの経験が次の挑戦を支えています。今回は、自信だけでなく、実際の資金まで引き継がれました。

「どうやって創るのか、聞きたい」

「作者の山本悦子先生が来てくださることになりました」と伝え、子どもたちは飛び上がらんばかりに喜んでいました。

どんなことを聞きたいか尋ねると、「どうやってこんなに面白いお話を創れるのか聞きたい」「どういう気持ちでこの本を書いたのか聞きたい」と、次々に声が上がります。

作家さんから直接お話作りを教えていただけるのは、非常に貴重な機会です。ここで学んだことを、自分たちのデジタルブックづくりに活かしていけるよう深めていきます。

